

# 第24期日本学術会議 若手アカデミー活動報告



第24期日本学術会議若手アカデミー代表  
岸村 顕広  
(九州大学)

1

## 若手アカデミー（第24期）発足（平成29年12月28日）



三成副会長と記念撮影する若手アカデミーメンバー

(埴淵メンバーによるデザイン)

- 学術の既存の枠にとらわれることなく、次の時代に対して責任を取るべき世代として自覚を持った活動を展開中。
- 若い力を活かした機動力のある「学者のネットワーク」を作り、学術の発展に関わる課題だけでなく、社会課題などにも向き合い、明るい未来の実現を目指している。

# 日本の若手アカデミー（YAJ）の活動：分科会がメイン

若手のための、あるいは、次世代としての活動を”異分野連携の下に”行う。

- ① ③ (1) 若手科学者の視点を活かした提言
- ② (2) 若手科学者ネットワークの運営
- ① ② (3) 若手科学者の意見収集と問題提起
- ④ (4) 若手科学者の国際交流
- ① ② ③ ④ (5) 産業界、行政、NPOとの連携
- ① ② ③ ④ (6) 科学教育の推進
- ③ ④ (7) その他目的の達成に必要な事業

若手アカデミー運営要綱より

**①若手による学術の未来検討分科会**  
 (役員：川口慎介、平田佐智子、埴淵知哉)

**②若手科学者ネットワーク分科会**  
 (役員：岩崎 渉、井頭麻子、前川知樹、酒折文武)

**③イノベーションに向けた社会連携分科会**  
 (役員：高山弘太郎、高瀬堅吉、上村想太郎、谷内江 望)

**④国際分科会**  
 (役員：新福洋子、西嶋一欽、中西和嘉、安田仁奈)

- 基本的に縦割りの構造は取らず課題別にグループを設定（多様性と機動力を確保）  
 →従来の『分野別』では解決困難な課題に柔軟に対応
- 次の時代に対して責任を取るべき世代としての自覚を持った活動
- 『高度かつ多様な次世代人材のプール』として社会への窓口・ハブとして機能

3

## 各分科会の活動概要

4

分科会名称	審議内容、成果など
運営分科会	今後の活動の方向性について議論。
若手による学術の未来検討分科会	博士課程経験者の多様なキャリアの事例を集めて発信する準備、学会活動の実態に関する調査（学会名鑑調査）とその分析、その他、学術の将来に関する議論の準備を継続して行っている。
若手科学者ネットワーク分科会	次年度の若手科学者サミットを企画（2019年度内に開催予定）。若手のネットワークをさらに広げることについても議論をしている。委員長が岩崎渉メンバーへ交代。
イノベーションに向けた社会連携分科会	シチズンサイエンスに関連する提言の準備、地方での議論の活性化に向けたイベント、意思表示の準備。
国際分科会	筑波会議の運営、WSFサイドイベント、大学国際化に関するワークショップ開催、NYAネットワーク会合への参加、GYA関連の活動。

実施日	名称	内容、成果など
4/9-11	IAP conference (韓国)	新福副代表が招待された。
4/28-5/3	国際代表派遣・GYA annual general meeting (ドイツ)	GYAの年次総会に3名の若手アカデミーメンバーが参加(岸村、新福、岩崎)。新福副代表が、再度執行役員に選出された。
7/31-8/2	国際代表派遣・第4回各国若手アカデミー会議 WWMYA2019 (ベトナム)	安田仁奈メンバーを派遣、渡辺副会長にもご講演いただき、日本のプレゼンスを示した。運営には安田メンバーに加え、新福副代表も関わった。

## GYA AGM 2019





世界31か国から54名の各国若手アカデミーメンバーが参加。

若手アカデミーとシニアアカデミーの連携について、他国が様々な問題を抱え活動がうまくいかないことも多いなか、日本は優良例を紹介でき、大きなインパクトを残すことができた。（渡辺先生のご参加が、特に他国のアカデミーから感謝されたとのこと。）

若手アカデミーの現状把握として、事前に行った調査結果をまとめ、各国若手アカデミーないしその類似団体の状況報告の後、以下のような内容を議論。

- ・コラボレーション、国際コラボレーション（資金の限界など）
- ・メンバーの選定、メンバーの従事性(モチベーション、任期など)
- ・資金の問題（シニアとの関係、資金集めの可能性、組織の法的なステータス、など）
- ・科学の信用とメディア（多くの人に知ってもらう努力、メディアとの対話の練習、youtubeの利用、政策者との繋がりなど）



## 各国若手アカデミーのガイドライン（案）

### THE GUIDING PRINCIPLES OF YOUNG ACADEMIES

#### 1. Excellence:

YAs strive for **both academic excellence and the commitment to reach out to other disciplines and society** when selecting their members and in their activity. YA members are scholars across all sciences, arts and humanities who have completed a doctoral degree and are at an early-mid career stage. (後略)

#### 2. Impact:

•**ON POLICY:** by striving to engage with relevant institutions and stakeholders through member-led initiatives and in collaboration with partners such as other academies. Impact may reflect at national (or other relevant) policy level and may also involve contributing to guidelines and advice for global policies.

•**ON SCIENCE, ARTS AND HUMANITIES:** by promoting initiatives that identify challenges faced by science, arts and humanities themselves, as well as by society and young scholars and by exploring solutions to address these. YA activities can focus on, but are not restricted to, current and possible future challenges locally and globally.

•**ON SOCIETY:** by providing outreach to engage with the whole of society to enable more interaction between scholars, policy makers and members of the public.

#### 3. Diversity and inclusivity: (省略)

#### 4. Responsibility:

YAs have a responsibility to advocate for, and promote best practices within the science, arts and humanities community. YAs also have a responsibility to society, including but not limited to engaging with grand societal challenges, and maintaining a linkage between scholars and the society. (後略)

#### 5. Knowledge-based evidence: (省略)

#### 6. Independence and transparency: (省略)

#### 7. Integrity:

Maintaining a strong positive reputation is crucial for impact. For YAs to lend a credible voice to global issues and grand societal challenges, a platform that is above reproach and free of scandal is required. Accordingly, YAs intentionally and proactively commit to high standards of academic and social integrity and ethics.

## 第1回筑波会議(10月2-4日)

<https://tsukuba-conference.com/>

「世界から産官学の優秀な若手人材を集め、彼らに討論の場を提供することです。彼らが未来のビジョンを語り、協働する仲間に出会う場の形成を目指しています。(HPより抜粋)」

第1回のメインテーマは、Society5.0とSDGs。

### 若手アカデミーが4つのセッションの運営を担当。

- *Special Plenary with Nobel Laureates*
- *ESG investments for the promotion of science and technology ~ collaboration is the key for SDGs!*
- *How perfect is the SDGs? - Reconsideration of SDGs from the viewpoint of inclusiveness and "immiscible" science advices*
- *G7 Young Scientist Meeting: Citizen science for updating "science" in the SDG era*

## 第1回筑波会議(10月2-4日)

<https://tsukuba-conference.com/>

「世界から産官学の優秀な若手人材を集め、彼らに討論の場を提供することです。彼らが未来のビジョンを語り、協働する仲間に出会う場の形成を目指しています。(HPより抜粋)」

第1回のメインテーマは、Society5.0とSDGs。

### 若手アカデミーが4つのセッションの運営を担当。

- *Special Plenary with Nobel Laureates*
- *ESG investments for the promotion of science and technology ~ collaboration is the key for SDGs!*
- *How perfect is the SDGs? - Reconsideration of SDGs from the viewpoint of inclusiveness and "immiscible" science advices*
- *G7 Young Scientist Meeting: Citizen science for updating "science" in the SDG era*



**World Science Forum（11月20-23日）**

**武内副会長と若手アカデミーメンバーで  
サイドイベントを運営**

本年、日本で開催されたS20の共同声明を受けて、SDGs達成に向けた科学者の立ち位置やscience adviceなどについて、特に海洋環境保全の問題を題材に議論予定。

1. Kazuhiko Takeuchi; Vice-President, Science Council of Japan
2. Nina Yasuda; Secretary of Sub-committee of International Activities, Young Academy of Japan
3. Akihiro Kishimura; Chair, Young Academy of Japan/ Member, Global Young Academy
4. Shunsuke Managi; Member, Young Academy of Japan
5. Michael Saliba; Executive Committee, Global Young Academy, Germany/Switzerland
6. Wibool Piyawattanametha; Alumni of Global Young Academy, Thailand

地方における若手科学者を中心とした学術活動の活性化

（内閣府日本学術会議）

事業概要・目的

現状と課題

- 若手アカデミーの科学者の多くは地方課題の認識、地方との交流が不足しており、地方の若手科学者は、学術界の最新動向に接する機会が不足している。
- 若手科学者が学際交流等で刺激を得て、革新的な研究テーマやアイデアを創出していくとともに、若手アカデミーが「若手の代表」として提言を表明することが重要。

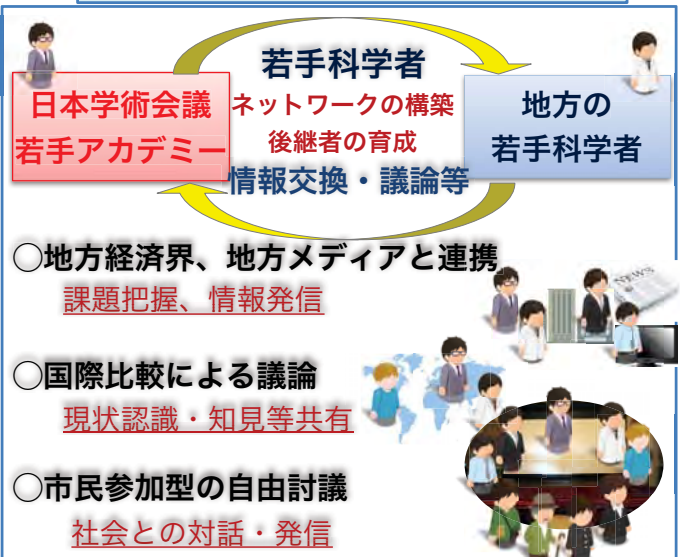
日本学術会議若手アカデミーの活動  
（日本で唯一の学際的なアカデミー）

課題解決への取組

- 若手アカデミーと地方在住の若手科学者との情報交換・議論を展開。また、地方の産業界・メディア・市民等と交え、今後の若手科学者・若手アカデミーの在り方を議論。

事業イメージ・具体例

地方においてワークショップを開催



期待される効果

- 若手科学者や地域社会等の意見を取り入れた若手アカデミーの提言の質の向上
- 国内外の若手科学者間のネットワーク構築によるアイデアの共有やイノベーションの創出
- 社会との対話による地方における様々な課題の解決に向けた提案や科学リテラシーの普及・啓発

7月26日に現地ヒアリングをかねて分科会を開催。

別府市役所の方に、市としての国際化への取り組みや留学生の活用に関する聞き取り。立命館アジア太平洋大学（APU）国際協力・研究部副部長の笹川秀夫教授にAPUでの取り組みや、現状について聞き取り。



聞き取り内容を踏まえて登壇者を調整し、令和2年1月23日にワークショップを開催する準備を進めている。別府の事例を共有する目的で、地方開催としてネット配信の準備も同時に進めている。（幅広く大学の国際部などへ案内することを予定している。）

日本学術会議 若手アカデミー 公開ワークショップ

別府市  
後援

大学の国際化による地方活性化促進：  
地域拠点としての大学の在り方を考える

Globalization of universities to  
revitalize local community

開会挨拶「若手アカデミーと大学の国際化（仮）」  
岸村顕広（日本学術会議連携会員、若手アカデミー代表、九州大学大学院工学研究院応用化学部門・九州大学分子システム科学センター准教授）

講演1「若手アカデミー：大学の国際化（仮）」  
中澤高志（日本学術会議連携会員、明治大学経営学部教授）

講演2「若手アカデミー：大学の国際化 研究機関の立場から（仮）」  
中西和嘉（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人物質・材料研究機構機能性材料研究拠点・分子機能化学グループ主任研究員）

講演3「高等教育の国際展開（仮）」  
佐藤邦明（文部科学省 高等教育局）

講演4「Experiences in working and living in Japan (TBD)」  
Alcantara Lailani（立命館アジア太平洋大学 国際経営学部教授）

講演5「別府市の外国人留学生増加に対する取り組み（仮）」  
大塚大輔（別府市文化国際課）

講演6「外国人留学生に必要な支援（仮）」  
梶原武淑（外国人留学生生活支援ボランティア）

日時：令和2年1月23日（木）  
14：00～17：00  
会場：別府国際コンベンション  
センター（ビーコンプラザ）  
※ネット配信を準備しています。  
申し込み先からネット視聴を  
選択ください。

申し込み先：

[https://forms.gle/  
znXtNb8QiSy5YKU7A](https://forms.gle/znXtNb8QiSy5YKU7A)

問い合わせ先：日本学術会議若手アカデミー 新福洋子



## 科学者委員会関連

委員会/分科会名称	内容、成果など
科学者委員会	軍事的安全保障研究声明に関するフォローアップ分科会に若手アカデミーから岸村・川口が参加。
男女共同参画分科会	新福副代表が議論に参加。若手アカデミー（埴淵、川口、新福）が参画してアンケートを作成、現在結果を分析中。
研究計画・研究資金検討分科会	大矢根メンバーがマスタープラン関連の議論に参加、周知可能な情報に限り、若手アカデミー内で共有した。
学術体制分科会	岩崎幹事が第6期科学技術基本計画に向けての提言の議論に加わり、若手の意見を伝えている。
学術と教育分科会	引き続き西嶋メンバーが議論に参加している。
学協会連携分科会	引き続き川口メンバーが議論に参加しており、若手アカデミー・学術の未来分科会の活動として行った学会名鑑調査の内容を速報として共有した。
研究評価分科会	若手アカデミーから2名が委員として議論に参加。

実施日	名称	内容、成果など
7/25	Gサイエンス学術会議共同声明・記者会見	日本学術会議にて行われた記者会見に、山極会長、渡辺副会長、武内副会長と共に新福副代表が列席。
8/8	Gサイエンス学術会議・共同声明の安倍総理への手交	G7サミットに向け、G7各国の学術会議と共同で出された声明を参加各国の政府首脳に対して手交。
8/8	総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会	若手アカデミーメンバーを中心に、若手研究者からの要望・アイデアを取りまとめて山極会長に届け、会議の議題にいただいた。(8月30日科学新聞にて報道)
8/23	若手アカデミー全体会議	各分科会も同時に開催し、今後の活動について議論した。内閣府CSTIの上席科学技術政策フェローである江端新吾氏がオブザーバー参加する中で、議論を深めた。散会后、有志による研究交流会を実施した。

- 5名任期満了による退会、4名新規加入(特任連携会員)があった。
- 高瀬&酒折メンバーが、課題別委員会『科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及のあり方に関する委員会』の議論に参加。
- 岸村代表と新福副代表が文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会の下に設置された人文学・社会科学特別委員会の臨時委員に就任。
- 狩野メンバー(就任当時)が外務大臣次席科学技術顧問に就任。
- 西嶋メンバーが外務省科学技術外交推進会議の委員に就任。
- その他、文科省と随時意見交換(研究力向上、人社連携、キャリア教育など)
- NHKの取材に協力(研究力低下、若手の環境などに関する話題)。

## Gサイエンス学術会議関連

Gサイエンス学術会議(パリ): 本年3月



Gサイエンス学術会議共同声明記者会見: 本年7月25日



安倍総理への共同声明の手交: 本年8月8日





## 科学への信頼低下の兆候

例) 真偽の疑わしい研究成果の流布、フェイクニュース



科学の急速な発展 ICT化・人工知能、ゲノム編集

地球的・地域的課題 気候変動、人口問題、天然資源枯渇

諸課題の解決に向けて、科学に対する信頼を構築し、社会全体が科学を正しく活用するために

課題

提言

**初等教育から行う科学教育** 数的・客観的・論理的な科学的思考力の育成、フェイクニュースの過信を防止

**市民・政策決定者・科学者の交流** 問題解決や意思決定に科学的見識を反映、長期的展望やビジョンの共有

**研究倫理と公平性の透明化と厳格化** 研究データの改ざん等の不正排除  
一部の不正による過大な停滞の回避

**科学評価における数値指標の過大な利用防止** 専門的見地からの、質・内容についての慎重な評価

## Gサイエンス学術会議共同声明 インターネット時代のシチズンサイエンス

### シチズンサイエンスの台頭

- ・プロの科学者ではない一般市民による研究(例:天文学、気象学)
- ・研究機関に所属せず管理を受けない研究者による研究(例:データサイエンス)

### 課題

- ・研究の安全性と倫理性  
例)個人情報、ゲノム編集
- ・研究の質と評価  
例)研究者間での相互評価体制の未整備

### 利点

- ・市民の科学理解の増進
  - ・異なった知識体系の統合
  - ・新たな人材や機会の発掘
- ➡ 科学イノベーションへの寄与

シチズンサイエンスが正しく機能し、さらに発展するために

提言

**初等中等教育からの科学教育の拡充**

協働力と科学的実践力の育成

**市民と研究機関とが両輪となった研究共進**

相互の信頼と尊重

**研究倫理と安全規定の遵守**

既存の研究管理方法の徹底

**研究たる科学的水準の担保**

科学的正確性・再現性の確保

**研究助成金**

既存の枠組みに加えた措置

**研究主題・成果を記録する国際的情報システムの構築**

国際的な共通プラットフォームの構築

### 科学新聞

週刊  
科学新聞社  
本社 (〒105-0013)  
東京都港区新橋2-2-13  
電話 03-3434-3743  
FAX 03-3434-3745  
mail edit@sci-nws.jp  
編集 03-70-8-3352  
定価 1ヶ月  
2,160円(税別)

### JASIS

2019  
205面

## 若手アカデミーから2つの提言

### 日本の研究力強化へ

## 長期海外で自由な研究時間を 分野横断的な議論の機会必要

### 学術会議まとめ

日本学術会議が2019年7月に発表した「国際競争力強化のための若手アカデミーの活動に関する提言」が、学術会議の議論を経て、2019年8月30日に「若手アカデミーに関する提言」(以下、提言)としてまとまった。提言は、若手アカデミーの活動の活性化、国際競争力強化のための提言としてまとめられた。提言は、若手アカデミーの活動の活性化、国際競争力強化のための提言としてまとめられた。提言は、若手アカデミーの活動の活性化、国際競争力強化のための提言としてまとめられた。

## 研究データ基盤システム 2020年度までに本格運用へ

### 内閣府WGが方策

### 第6期科学技術基本計画に反映

内閣府の「研究データ基盤システム」に関するワーキンググループ(WG)が、2020年度までに本格運用への方策をまとめた。WGは、研究データ基盤システムの構築、運用、普及の促進を図るための方策をまとめた。WGは、研究データ基盤システムの構築、運用、普及の促進を図るための方策をまとめた。

## IoT機器などの自立電源に期待

### 汎用元素で熱

Fe-A  
熱電材料



IoT機器などの自立電源に期待。汎用元素で熱電材料の開発が進んでいる。

3マイ

## 主な活動予定(2020年3月まで)

予定日	名称	予定される内容
10/2-4	筑波会議	若手アカデミーが協力機関として参画し、GYAとも連携して複数のセッションを企画・運営。
10/3	学術フォーラム「科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及のあり方」	高瀬、酒折の両メンバーが同名の日学委員会に参加し、積極的に議論に加わり、当日のパネルに高瀬メンバーが参加。
10/5	10th EU-Japan Science Policy Forum (京都)	若手アカデミーを代表して、新福副代表が参加。
10/5-8	STS Forum Annual Meeting 2019 (京都)	安田メンバーをFuture Leaders Programに派遣。また、新福副代表がAnnual Meeting内で講演を依頼されている。
2020.1/23	公開ワークショップ「大学の国際化による地方活性化促進：地域拠点としての大学の在り方を考える」	大学を中心とする国際化の成功事例に学ぶべく、別府で開催。当地の地域行政、大学、ボランティアの方、及び、文科省の方にご登壇いただき議論を深める。オンライン配信を計画。
1月予定	全体会議	全体会議を予定、日程調整中。

-残り1年となるので、意思表示を視野に入れてまとめに入るとともに、次の期を睨んでの新たな取組についても検討を進める。